

令和2年 9月号

家庭教育学級

のびっこ

恵那市生涯学習課

社会教育指導員 堀



9月から『はじまるよ』『はじめるよ』乳幼児期の家庭教育学級

今月からいよいよ乳幼児期の家庭教育学級を開級します。4月から今まで開級はしていませんでしたが、コミュニティセンターの主事さんと「できることをできるだけ」の工夫を考え活動していたところがたくさんあります。どんな取り組みをしていたのか紹介します。

- ① LINELIVE を活用して、地域の読み聞かせボランティアの人たちから創作人形劇のお話をしてもらったり、手遊び歌を教えてもらったりしました。きっと、ママのお膝抱っこで、一緒に手遊び歌を楽しんだに違いありません。閉級している間に6回もお話や手遊び歌を教えてもらったので、生活の一部に定着してきたことでしょう。地域の読み聞かせボランティアの顔も覚えたので、町で出会ったら元気に挨拶できるかもしれませんね。「人形のお話をしてもらってありがとう」って。
- ② 「巣ごもりをしているママと子どもが退屈しては……」と気になった主事さんは七変化できるおもちゃのお面を手作りして、届けたそうです。すると、ママが主事さんからプレゼントしてもらったお面で遊んでいる子どもの様子を撮って、スマホに送ってくれたそうです。楽しそうに遊んでいる様子を見て主事さんもうれしかったことでしょう。三密を避けた活動ですが学級生と主事さんの心が「しっかりつながっているな」と感じるうれしい活動です。

新型コロナウイルスの影響で、生活様式を変えなければならない状態が続きますが、気を付けなければならないことを気にしながら、ほんの少し外にも目を向けてみるのもいいかもしれません。無理強いできませんが、9月から乳幼児期の家庭教育学級が始まることも頭の片隅に置いてもらえるといいな！！お住いの地域で行われる乳幼児期の家庭教育学級については、それぞれのコミュニティセンターに問い合わせしてください。

巣ごもりもキラキラタイムで楽しんじゃおう(^_-)-☆

春先から巣ごもりタイムが多くなり「最近交換したばかりなのに、もうティッシュボックスが空っぽになっている。捨てなくちゃ」「何かに利用できないかと思い、とっておいた空き箱だけ使い道がないから邪魔！」と、部屋のあちこちに鎮座する物が増えてきたように感じていませんか。ぐるりと見まわすとペットボトルに牛乳パック、トイレトペーパーの芯もあれば紙コップまで目につきます。ここで“一気に捨てよう”と思うことなかれ！！これらのものを利用して、我が子と一緒に手作りおもちゃに挑戦してみませんか？「面倒くさいことは嫌だな」と思わずに、一度お試しあれ。

買うおもちゃは安全性にも優れ、色や形も計算されて魅力的なものばかりですが、手作りおもちゃもいいところがたくさんありますので、手作りおもちゃの良さをPRしたいと思います。

【手作りおもちゃの魅力】

その1. 我が子のために「手作りおもちゃを作ろう」と創意工夫するママも満足感を味わえます。
その2. 「ママが自分のためにおもちゃを作ってくれている」と子どもに愛情が伝わります。

いかがですか。子どもと一緒に手作りおもちゃに挑戦したくなってきましたか？

9月から再開する乳幼児期の家庭教育学級では、社会教育指導員のお話タイムの時にできるだけ簡単に作れて親子で楽しめる手作りおもちゃの紹介もしていきたいと考えています。

佐藤一斎先生の『言志四録』の教えを子育てに生かす

かなら さいわい もと
必ずしも 福 を干めず。
わざわいな もっ さいわい な
禍 無きを以て 福 と為す。

(言志叢録154条)

誰もが幸福になることを望むものですが、不幸なことが起こらないこともまた、幸福だと知る必要があります。

恥をかかないことが名誉なことであり、若死にしないことが長生きであり、飢えずに生きられるのが富むことであり、病気でないことが健康なのです。他人と比較せず、欲張らず、足るを知ることが、人生を幸せに楽しく生きるコツなのです。

「幸せは、いつもあなたの足元にある」ですね。
「何事もない」こと(無事)も幸せの一つだそうです。



エーナちゃん

つながって感じよう“あったかい”“やさしい”ころ！！

ママが抱えている悩みのベスト1は、ついつい子どもに口出ししてしまうことだそうです。例えば、食事のたびに監視するつもりはないのだけれど「そんなにお口いっぱい詰め込んでダメです」「あっちこっち、よそ見してばかりはいけません。お口がひまだあ～していますよ」きわめつけは「ふざけてばかりいないの！何回も言っているよ。食べ物で遊ばないの」と否定される言葉を並べられると、子どもは困ってしまいます。不安にもなってきます。

ママの気持ちも複雑になります。どこまで見守ればいいのか？いつ口出しすればいいのか悩んで、結果的には我慢も限界になって切れてしまうことがあります。口出した後に“言いすぎて自分があることに気が付く”くり返しだと思います。ここで「落ち込むことなかれ」です。

「今、ちょっと言いすぎちゃった」と感じたママの“気づき”が大切なのです。気づいていることに自信をもって、気長に“ラク”な子育てをしたいものです。

子どもは否定する言葉を聞くより、ママの〇〇している姿を見る方が体だけでなく心の成長も促すことができます。食事の時に、おいしく食べるママの姿を見た子どもは「ああしてコップを持つんだ」「おしゃべりやキョロキョロしないでモグモグを頑張るとおいしいな」と食事のマナーも覚えます。

そして、「おいしかったね」「お皿がピカピカだね。きれいに食べられたね」「スプーンで上手にすくえるようになったね」と子どもの“やったー！”感に共感すると、子どもは「ママは自分のことをわかってくれる」と思って、信頼感を高めます。

子どもの気持ちに共感して、親子の“つながっている”感を高めましょう。